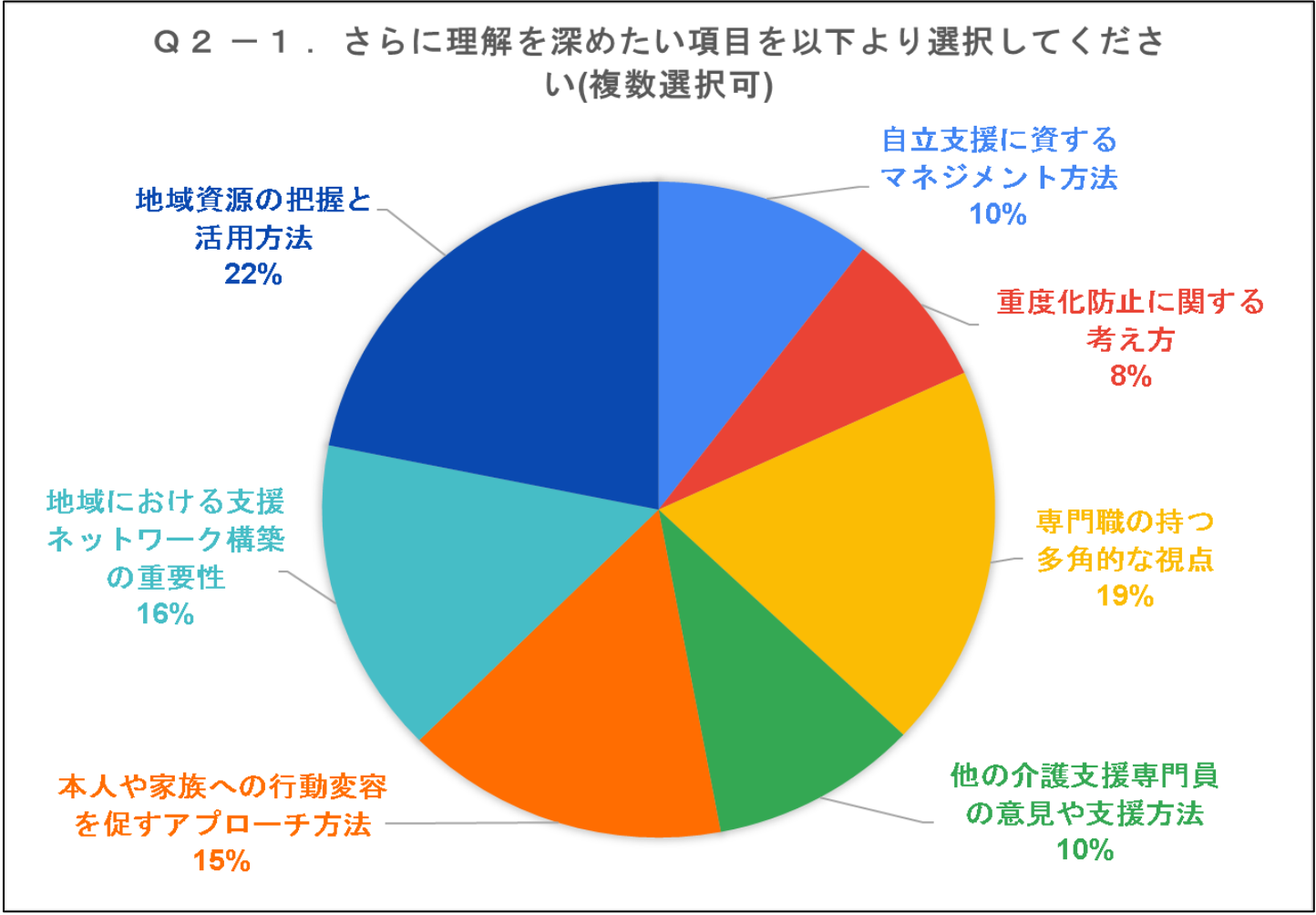
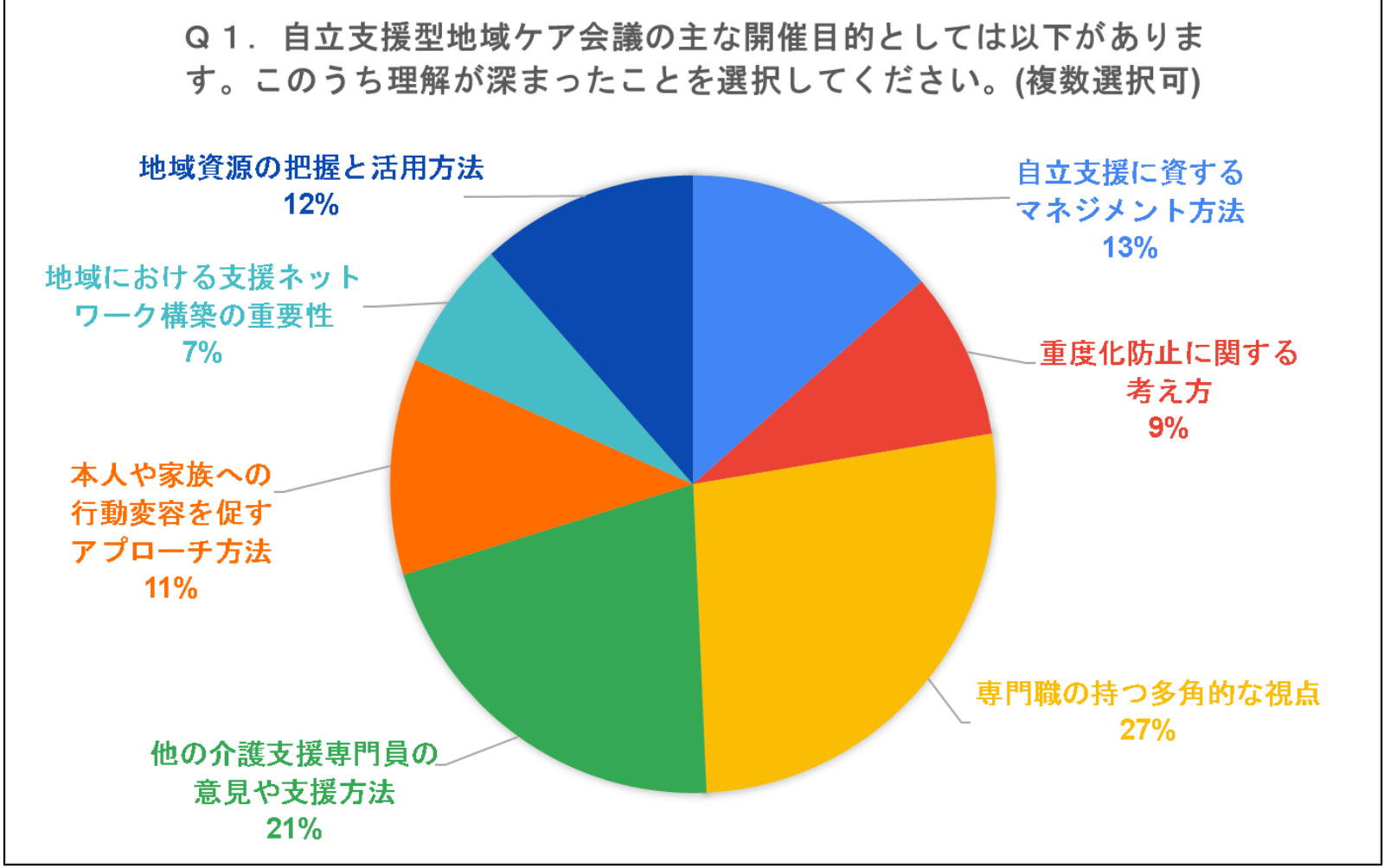


令和7年度下半期 自立支援型地域ケア会議 アンケートまとめ



Q 2 - 2. Q2-1で選択した理解を深めたいと思った理由をご記入ください。

- ・フォーマルな支援でカバーできない方へのアプローチを増やしたいため。
- ・多職種からの意見は自分の視点と違って本人の身体的な評価の仕方や活動の範囲の見方も違うので、会議を通してもっと学びたいと思ったため。
- ・アプローチの方法が自分の目線で考えてしまうので、他にも方法があるのであれば試してみたいと思ったため。
- ・自立支援において専門職の視点からの的確なアドバイスは学びが多くあり、多角的な視点でアプローチすることで本人や家族への行動変容に繋がることが良く理解できた。また、地域資源の活用は円滑な支援に結びつくことを理解しているが、実際は活用できていないと反省しており今後はより多くの地域資源を自発的に把握していきたいと思っているため。
- ・今回の事例検討で高齢者の日々の食事の重要性を改めて感じ、地域で行われている栄養教室等の資源把握を行っていききたいため。
- ・利用者の現状のさらにその先を見据えた課題や問題点について専門職からの指摘であらためて気づく事ができた。また、地域資源については積極的に調べるようにしていなかったので、会議に参加することで介護度の低い方に対してインフォーマルサービスを提案ができることがもっとあったのではないかと反省に繋がったため。
- ・歩行状態から疾患名や服薬調整が必要な事、疾患の原因には食事内容が重要な事、処方薬が重複されている可能性がある事、運動を継続するには歯をくいしばる必要があるので、歯科受診が重要である事など専門職ならではの多角的な視点があったため。
- ・他の（事業所）の介護支援専門員の意見や支援方法を知れる良い機会だと思ったこと地域の支援の把握ができていなかったことを改めて感じたため。
- ・免許返納のアプローチについていい案があれば専門職のアドバイスを聞きたいと思ったため。
- ・支援に必要な専門的知識及び地域資源の把握が不足していると感じるため。
- ・芝地区における社会資源を把握していないため。
- ・口腔ケアを習慣付けような行動変容のアプローチや就寝臥床時の唾液誤嚥防止について専門職の視点を知りたいため。
- ・オンライン講座など知らない情報を知れたので、今後も情報収集を自主的に行っていきたいと思った。
- ・事業所内では、専門職の意見を伺う機会がないので、事例を通して自分では気が付かないものの見方やアプローチ方法を学べるため。
- ・様々な利用者や家族の抱える問題に対し重度化防止のため専門職、多職種との連携が必要であると考えるため。
- ・福祉用具相談員としての提案を行う際に、御利用者様、ご家族様の質問に多数の提案ができるようになりたいため。
- ・栄養面についての知識が更に深まったことや失禁による腰椎体操等の効果等について学べたため。
- ・基本的に介護保険対象サービスしか知識がなく、ご本人の要望に合致する集まりなどを紹介出来ていなかったため。

Q 3. 今後自身がケアマネジメントする際に参考にしたい、参考にできそうなことをご記入ください。

- ・高齢者でもできるボランティア(地域活動)、自分はまだまだできるとの気持ちを大事にすること。
- ・本人の食事内容を把握すること。
- ・高齢者だからと侮ることなく、スマホ等使用できる方に対してのアプリを提案すること。
- ・社会参加活動や社会資源の利用をすること。
- ・地域資源を活用すること。
- ・栄養の取り方や、食事で気をつけなくてはいけないことを積極的にアドバイスすること。
- ・本人のできる能力のアセスメント力を深め、利用者との信頼を更に深めること。
- ・改善点ばかりに目を向けるのではなく、出来ていることや良い部分も大切にし、それを本人に言葉で伝えることでモチベーションに繋げていくこと。
- ・口腔内を清潔に保持し、義歯や噛む力が上がると食事量も増え、筋力UPにもつながること。
- ・疾患に応じた栄養の摂り方、訪問栄養指導、食事療法と合わせて運動の方法を考えること。
- ・身体だけを見るのではなく栄養面や口腔内の事も念頭に置きながらアセスメントを実施すること。
- ・口腔ケアの重要性。
- ・毎日の散歩量を増やしていく意見に、男性は数値化するとやる気がでるという意見があり今後、自身の支援にも役立ちそうだったこと。
- ・栄養相談などの地域資源など介護保険外の情報提供をすること。
- ・夫婦で対応するケースも増えてきているが、個々だけではなく夫婦としてのアセスメントも必要であること。
- ・家族のあり方がご本人の気持ちや行動にも大いに影響することを感じ、これまで以上にご本人だけでなく家族を含めた環境の情報収集も必要だと思ったこと。
- ・専門職の意見。
- ・旅行日記(以前撮り溜めた写真等での思い出日記の作成、自己想起訓練)を作成すること。
- ・管理栄養士の先生の時間栄養学について、体内時計をリセットさせるためには8時までに朝食を食べた方が良いということを寝坊が多い利用者に話したいと思ったこと。
- ・介護保険以外のインフォーマルな支援や地域の情報を活用すること。
- ・作業療法士の視点は福祉用具の観点との親和性が高く、室内での活動増加についてとても参考になるご意見、手法を交換できたこと。

Q 4 - 1. 自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントを行う際に、これまでの自立支援型地域ケア会議に参加して学んだ予防の視点の考え方を、プランに取り入れたことがありますか。

	ある	ない	総計
中横西	0	8	8
青木	7	6	13
上青木前川	7	8	15
南平	3	6	9
新郷	3	6	9
神根	2	5	7
芝	1	4	5
安行	1	4	5
戸塚	0	4	4
鳩ヶ谷	0	4	4
総計	24	55	79

Q 4 - 2. Q4-1で「ある」を選択したかたの取り入れた内容

- PT・OTのリハビリ方法。
- 趣味活動や目標等、課題分析から長期・短期目標の中身に取り入れるようになった。
- 家族へのアプローチ方法。
- 本人の活動量を可視化し、現状を把握させ、運動意欲を向上させること。
- 訪問栄養指導による栄養、健康の管理方法。
- 介護予防ギフトボックスの案内。転ばん塾の活用。連動して通所型独自サービスを利用すること。
- サービス利用時でも家庭でも役割を持つことの重要性を本人に伝え、プランに反映させること。
- 食事の改善方法等。
- 主介護者の介護力の確認。（病歴や通院状況等）本人、家族ができないところの支援をすること。
- 歯科検診により義歯の調整や嚥下の評価を実施し、毎日の口腔ケアが食べることにもつながる事を認識してもらうこと。
- リハビリの視点、薬剤からの視点。
- 本人の持っている力を病気になっても発揮出来るようにマネジメントすること。
- インフォーマルサービスへの参加で自身が役立つ事を体験し、自信に繋がってもらう場の提供を行うこと。
- 運動機会を増やし病状や身体状況の悪化を予防すること、食事内容の定期的な調整や必要に応じて主治医や薬剤師に相談すること。
- インフォーマルな地域資源の活用。
- 外出を嫌がる方に訪問リハなど訪問系のサービスから利用していくこと。